

JARA NEV

JAPAN AUTOMOBILE RECYCLE NETWORK NEWS

Vol. 97 MARCH 2016 http://www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation Tokyo Head Office: Shinwa Bldg. 1-2-2-7F Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, JAPAN 103-0027 Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

自動車リサイクルのこれから ~第2回サミットから~

「価値ある車両」仕入れに本質

日刊自動車新聞社は3日、自動車リサイ た。「次世代に夢をつなぐリサイクル事 の木内雅之総務部会長)「タマ(車両)不 業」をテーマとした今回は、自動車リサイ クル関連10団体が業界の方向性や予想さ れる課題について議論を交わした。サミッ トの最後には「サミット宣言」を採択、日 本の循環型社会への貢献に加え、環境変化 に着実に対応することで合意した。各団体 は悪化する経営環境への対応やグローバル が高水準を維持していることにあるが、リ 化、人材の確保・育成など難しい舵取りを 求められている。

製造産業局自動車課自動車リサイクル室の 保坂明室長が業界の動向とリサイクル部品 市場の拡大策などについて、環境省大臣官 房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイ クル推進室の山口裕司室長補佐は環境政策 の視点から見た自動車リサイクル業界につ いて、それぞれ講演を行った。

保坂室長は国内の経営環境が厳しさを増 していることに触れつつ、「小異を捨てて 大同につくことが求められているのではな いか」と業界全体で課題に向き合うことを 求めた。一方で山口室長補佐は「環境政策 において温暖化問題や自然循環などの話が あるように (環境省の) 実証事業などを通 じてさまざまなプレーヤーが出てきてい ルートも含めた見極めが重要になりつつあ る」と指摘。「自動車リサイクル業界もさ らに視野を広く持つことが必要だ」と今後 は横断的な交流が重要との認識を示した。

サミットでは「現在の経営環境と対応 策」「人材の育成・確保に向けて」「自動 車リサイクルの国際展開」の三つを大きな

議題として、将来的な方向性を中心とした 議論を展開した。

まず参加者から多く言及があったのが、 使用済み自動車の減少が常態化しているこ クル事業について議論する「第2回自動車 とだ。「使用済み車の減少は大きな課題と リサイクルサミット」を東京都内で開催し なっている」(日本ELVリサイクル機構 足による車両獲得争いが激化している」

> (NGP日本自動車リサイクル事業協同組 合の太田道人青年部会長)というように、 使用済み自動車の発生台数は統計開始以来 過去最低水準となっている。

原因は新車販売台数の低迷や中古車輸出 サイクル事業者にとって使用済み車はリサ イクル部品や鉄スクラップを生み出すいわ サミットでは基調講演として経済産業省 ば"産業の米"。それがなくなるとなれば 業界の根幹を揺るがしかねない。

> 「商売の始まりは車両の仕入れであって、 品物が入ってこなければ商売にならない」 (部友会の鳩村昭二郎会長) とリサイクル 部品販売団体も苦しい状況だ。一方で一部 では「売り上げが伸びているので、リサイ クル部品市場としては拡大していると思っ ている」(JARAの北島宗尚社長)と手 ごたえを感じている声も上がった。

リサイクル部品販売という面で見ると、 必ずしも使用済み車の量を確保するのでは なく、価値のある車両をどれだけ仕入れら れるかに事業の本質が隠れていると言え る。業界にとっては従来の車両の仕入れ

相反する海外展開と国内循環

自動車リサイクル業界で昨年から大きな 懸念材料となっているのが鉄スクラップ価

団体名

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構

一般社団法人 日本トラックリファイン パーツ協会

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

東日本自動車解体処理協同組合

特定非営利活動法人 RUMアライアンス

株式会社JARA

株式会社ビッグウェーブ

株式会社エス・エス・ジー

日本パーツ協会

一般社団法人 部友会

格の低迷だ。サミットでも懸念を示す意見 が続出。廃車ガラの出荷で収益を稼いでき た事業者にとっては「資源だけに頼ると厳 しい部分が出てきた」(東日本自動車解体 処理協同組合の長谷川栄副理事長)。事業 環境の悪化に加え少子化により縮小が予想 される国内市場。海外に活路を見いだす動 きもあり業界は打開の糸口を模索する。

鉄スクラップ価格は2015年1月に比 べ全国で見て約4割低下し、1万5千円前 後で推移している。中国経済に停滞感が 漂っていることから「鉄スクラップ価格が 上がることは難しいだろう」(NGP日本 自動車リサイクル事業協同組合の太田道人 青年部会長) との見方が大勢だ。

低価格

高品質







JAPAN AUTOMOBILE RECYCLE NETWORK NEWS No.97 MARCH 2016 < 2 >



自動車リサイクルの国際展開も大きなテーマ になりつつある

一方でビッグウェーブの服部厚司社長は「スクラップ価格はあくまで相場で動く話。その時々に応じて変わるものなので、いつでも含んでおかなければならない」と指摘する。北海道を地盤とするエス・エス・ジーも「(地域を限定した)車両引取キャンペーンと部品販売で乗り切っていこうという考えだ」(工藤浩司取締役)と市況に左右されない事業展開を志向する。

使用済み車の減少や部品運送費の高騰といった従来の経営課題にスクラップ価格の低迷が加わったことで、各団体からは先行きを見通す難しさに言及する意見が議論では目立った。

そのなかで、ここ数年存在感を増しているのが海外への事業展開だ。大手リサイクル事業者や有カリサイクル部品団体は縮む日本市場から需要が見込める国へと視線を移し始めた。工場の建設や合弁会社の設立など新たな市場を開拓しようと現地に進出する動きが活発化している。

JARAの北島宗尚社長は「日本の自動車は世界商材だからこそアフター部品も海外に出て行く」と流通全体の流れの中で自動車リサイクル部品を捉える。また「国内と同等の質の部品を求められる」(日本パーツ協会の古山博康氏)というように日本のリサイクル部品の品質の高さが海外に認知されていることも、事業者の海外展開を後押しする根強い一因といえそうだ。

政府は世界での環境貢献という観点から 自動車リサイクル制度の海外輸出を探る。 サミット参加者からは「インフラシステムを輸出できる取り組みも必要だ」(日本 LVリサイクル機構の木内雅之総務だこ。 長)と賛同する意見が相次いだ。ただ、 自動車の国内循環を進めようというので、 自動車の国内循環を進めようというので、 会の宮本眞命代表理事)と日本での循環型 社会形成に向け釘を刺す意見も少なからず あがった。海外に部品を輸出すれば、国内 で自動車資源を再利用する根源的な仕組み が崩壊しかねない。

RUMアライアンスの赤須洋一郎理事が「グローバルな視点と、リサイクル部品の地産地消というローカルな視点の間に立た

なければならない」というように、事業 拡大と国内循環の二兎を追う難しい選択 があることも事実。自り法を所管する経 済産業省と環境省を含めた業界全体で将 来的な方向性を共有することが欠かせな い。

人材確保にはイメージ改善を

日本の構造的問題として確実に忍び寄る少子高齢化。今後はあらゆる分野で人手不足が予想されるが、自動車リサイクル業界も例外ではない。サミットで取り上げた「人材の確保・育成策」のテーマでも各団体の試行錯誤する様子がにじみ出る。どのように業界の道筋を示し、人材の新陳代謝を促していくか。事業構造の変化とともに、業界は過渡期を迎えつつある。

育成面で見るとリサイクル業界は各団体がそれぞれ多様な研修メニューをそろえており、自動車アフター業界の中でも充実した研修制度を敷いているといえる。エス・エス・ジーのように「女子会と呼ぶ研修を開催し、女性向けクレーム対応にも取り組んでいる」(工藤浩司取締役)ところもある。

ただ、「実際に研修会で若手が来て知識として身に付けても(会社に戻ってから)どれくらい生かせるかということがある」(東日本自動車解体処理協同組合の長谷川栄副理事長)。さらにこういった研修はあくまでも団体に加盟する事業者が対象。新たに人材を採用する場合の有効なPR方法を業界全体が打ち出せずにいるのが現状と言える。

ビッグウェーブの服部厚司社長が「きつい・汚い・暗いの負のイメージをもたれている人が多い」というように、多くのサミット参加者は業界の印象が決して良くないことに懸念を示しており、どのように周囲に訴求していくかは大きな課題だ。

自社で新卒採用を行っている日本トラックリファインパーツ協会の宮本眞希代表理事は「働きがいとやりがいを学生にアピールする必要がある」ことから「(経営者が)我々は産業の価値を持ってやっているという意志をもって接しなければならない」と指摘する。人材採用に向けた業界のPRが不足しているのはリサイクル業界だけの話ではない。「ブラック企業」などのイメージが広がる中、採用への向き合い方をまずは見直す必要がある。

また「時間はかかるが認知度やイメージアップに取り組んでいく」(日本ELVリサイクル機構の木内雅之総務部会長)ことを意識し、地道な活動を積み重ねることが将来の肥やしになると言える。

一方で「国内の人材採用だけではなく、 外国人の研修生らを招きいれることも重要 だ」(NGP日本自動車リサイクル事業協 同組合の太田道人青年部会長)と海外人材 の受け入れを要望する意見も複数上がっ

CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用による CO2削減効果参考値 平成28年1月

3, 347t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル 部品協議会と早稲田大学環境総合研究 センターがLCA(ライフ・サイクル・ アセスメント)の考え方に基づき共同 開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

た。リサイクル事業は外国人技能実習制度 の対象ではなく、同制度を活用して海外人 材を受け入れることはできない。このため 業界側は人材の多様化を図るとともに労働 力の確保を目指し、リサイクル事業を自動 車整備などと同じように「海外の企業実習 生に門戸を広げる」(服部社長)重要性を 訴える。

人材問題は今後リサイクル事業に限らず、日本経済全体に重くのしかかることは 間違いない。

次世代車や車両に採用される新素材への対応、国際化といった従来にはない業界テーマを抱えつつあるリサイクル業界。JARAの北島宗尚社長が「執行部の世代交代も行った」というように業界の中での人材の流動性を高めることも今後は必須だろう。まずは業界構造の変化への危機感を共有し協調分野を見出すことが次世代へと事業をつなぐ第一歩になる。



サミットでは次世代を担う人材を中心に 議論を交わした

日刊自動車新聞2月10日・12日・16日





コベルコが提案する 新しい考え方

1979年世界初の自動車解体機の発売以来、 30年以上にわたって金属リサイクル分野で常にリードし、 環境負荷の低減に貢献してきました。

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体および さまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。





SK1355RD

コベルコ建模株式会社

http://www.kobelco-kenki.co.jp/

KOBELCO

We Save You Fuel

New ideas come from KOBELCO

Since launching the world's first car-dismantling machine in 1979, KOBELCO has continued to take the lead in the metals recycling industry. For over 30 years, we have contributed to reducing environmental impact.

Multi-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine

Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

In addition to dismantling end-of-life cars, Car-Dismantling Machine efficiently separates and sorts raw materials in end-of-life cars and is able to recover rare earth metals.





KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V. http://www.kobelco-europe.com/

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.

KOBELCO

神钢 无坚不摧!

新构想源于神钢

1979年世界第一台汽车拆除机发售以来, 30多年来一直引领金属再生领域, 在降低对环境压力方面功不可没。

多功能拆除机

汽车拆除机

拆除废家电等金属制机器以及各种复合 能够回收稀金属资源。

不仅可以拆除不再使用的汽车,还可以 可快速进行报废汽车内索材的分类作业,

废弃物品的拆除、分类作业。





SK135SR

成都神鈿工程机械(集团)有限公司

http://www.kobelco-jianji.com/

KOBELCO

We Save You Fuel

새로운 발상은 KOBELCO에서

1979년 세계 최초로 자동차 해체기를 출시한 이래, 30여 년에 걸쳐 금속 재활용 분야에서 항상 앞장서서 환경 부하 저감에 공헌해 왔습니다.

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의 해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.





SK135SR

(조) (주)삼정건설기계

http://www.samjung-kenki.co.kr/



Go Go Japan Industry (M) Sdn Bhd

Lot 15, Jalan 4/32A,

Mukim Batu Industrial Area, 6½ Mile Off Jalan Kepong 52000 Kuala Lumpur, Malaysia.

Tel: 03-62415258 Fax: 03-62415285



高品質 High Quality 品质高超





低価格 Resonable Price 价格合理



迅速なデリバリー Speedy Delivery 交货迅速



優れたサービス Excellent Service 服务卓越













For Enquiry, Please Contact / 询问洽购,请联络: 03-6241 5258

< Parts Supplying Fully Back Up by HIDA TEC Japan >



Tel : 025-539-1515 Email: narc-2001@helen.ocn.ne.jp

Tel: 025-274-1516 Email: narc-2004@ace.ocn.ne.jp



KAETSU Branch

JOUETSU Branch